

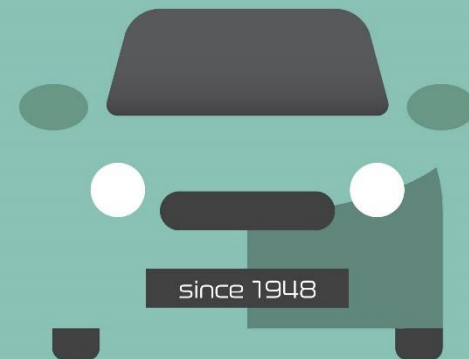
# 2023年3月期 第1四半期 決算説明資料

 **日本プラスト株式会社**

**I. 2023年3月期第1四半期 決算報告**

**II. 2023年3月期 通期見通し**

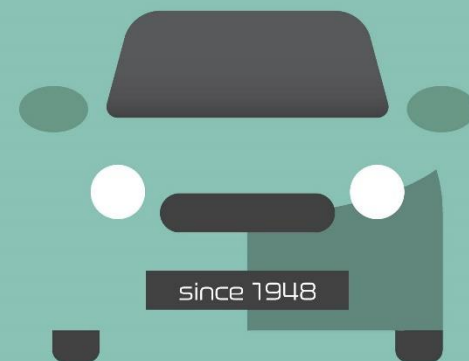
**III. トピックス**



## I. 2023年3月期第1四半期 決算報告

## II. 2023年3月期 通期見通し

## III. トピックス



# (1) 概要



(単位：百万円)

	2022年3月期 第1四半期		2023年3月期 第1四半期		対前年比	
					増減	伸率
売上高	22,264	100.0%	23,305	100.0%	1,040	4.7%
売上原価	20,040	90.0%	21,657	92.9%	1,616	8.1%
売上総利益	2,223	10.0%	1,648	7.1%	△ 575	△ 25.9%
販売費及び一般管理費	1,744	7.8%	1,999	8.6%	254	14.6%
営業利益又は 営業損失(△)	478	2.1%	△ 351	△ 1.5%	△ 829	—
経常利益又は 経常損失(△)	469	2.1%	△ 92	△ 0.4%	△ 561	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失(△)	235	1.1%	△ 487	△ 2.1%	△ 722	—
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失(△)		12.31円		△ 25.47円	—	—
1株当たり配当金		—		—	—	—
US \$ 換算レート	注1)	107.14円	注2)	117.81円	10.67円	—

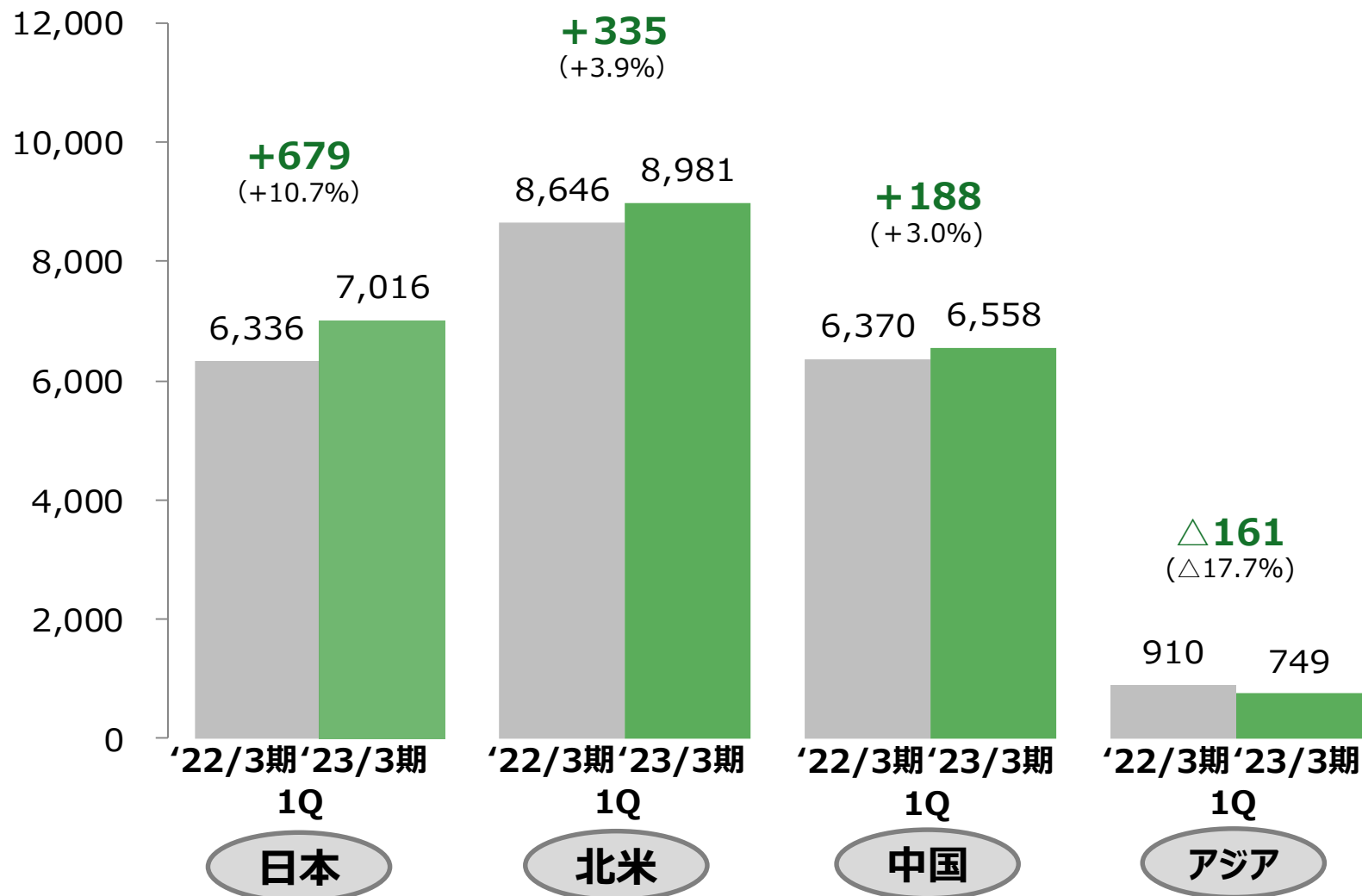
注1) 21年1～3月平均レート

注2) 22年1～3月平均レート

## (2) セグメント情報 <地域別売上>



(単位：百万円)

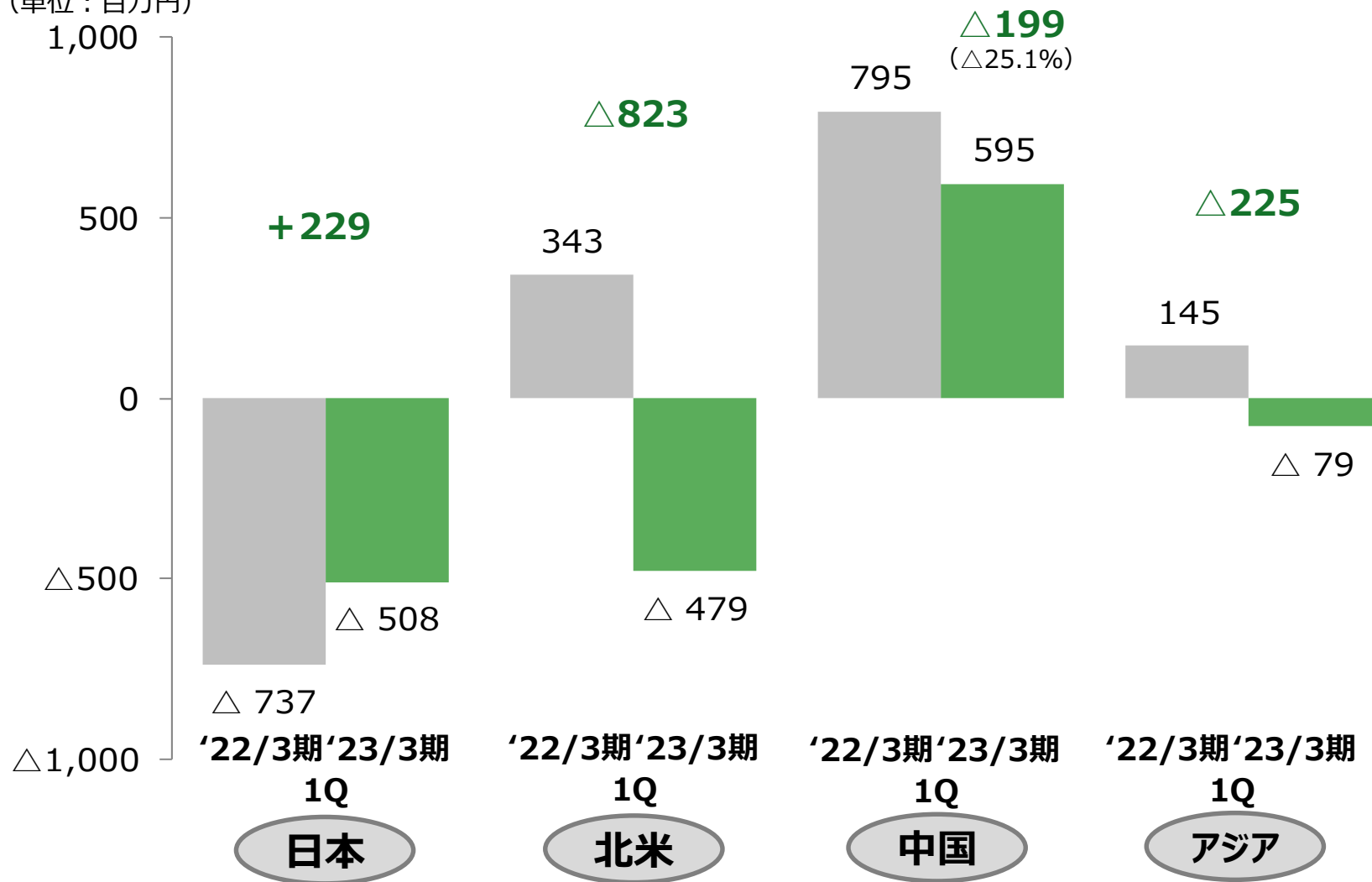


北米・中国での為替影響、日本での新車効果等により増収

## (2) セグメント情報 <地域別営業利益>



(単位：百万円)



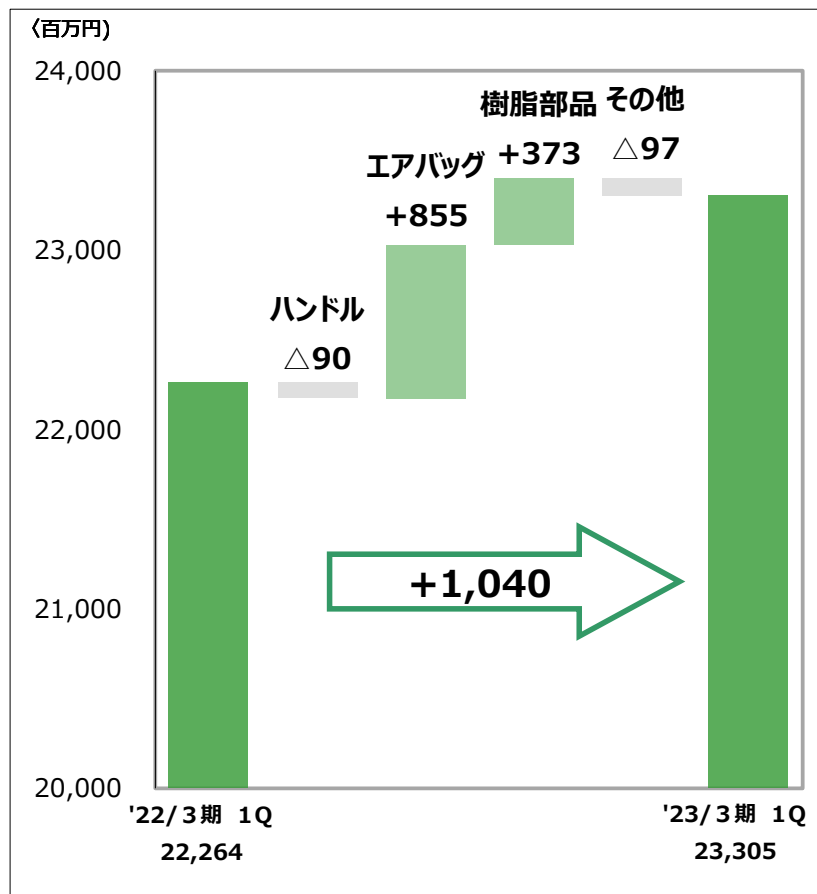
減収影響、原材料の値上げ、労務費、諸経費の増加等により、厳しい状況が続く

# (3) 製品別売上



(単位：百万円)

	'22/3期 1Q	'23/3期 1Q	対前年比	
			増減	伸率
			ハンドル	5,977 (26.8%)
エアバッグ	5,489 (24.7%)	6,346 (27.2%)	855	15.6%
樹脂部品	10,468 (47.0%)	10,840 (46.5%)	373	3.6%
その他	328 (1.5%)	231 (1.0%)	△97	△29.5%
連結売上高	22,264	23,305	1,040	4.7%



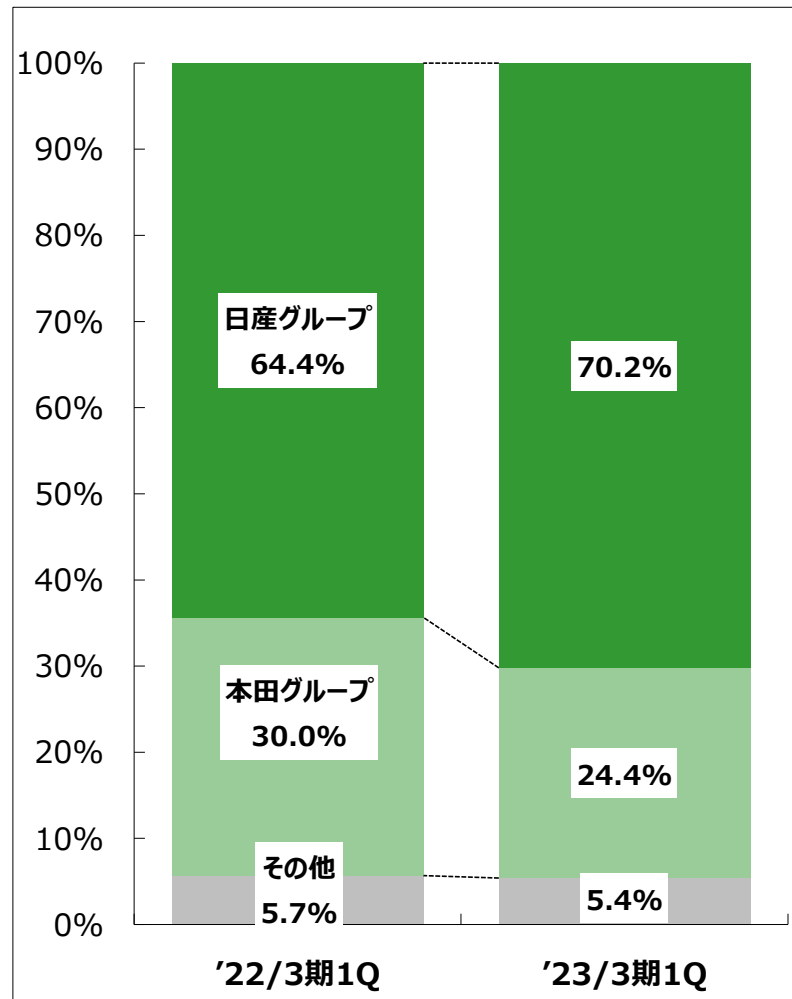
新車効果、部品構成差等によりエアバッグ、樹脂部品は増加

# (4) 得意先別売上



(単位：百万円)

	'22/3期 1Q	'23/3期 1Q	対前年比	
			増減	伸率
日産グループ	14,327 ( 64.4 %)	16,364 ( 70.2 %)	2,035	14.2 %
本田グループ	6,672 ( 30.0 %)	5,691 ( 24.4 %)	△ 981	△14.7 %
その他	1,265 ( 5.7 %)	1,249 ( 5.4 %)	△ 15	△1.2 %
連結売上高	22,264	23,305	1,040	4.7 %



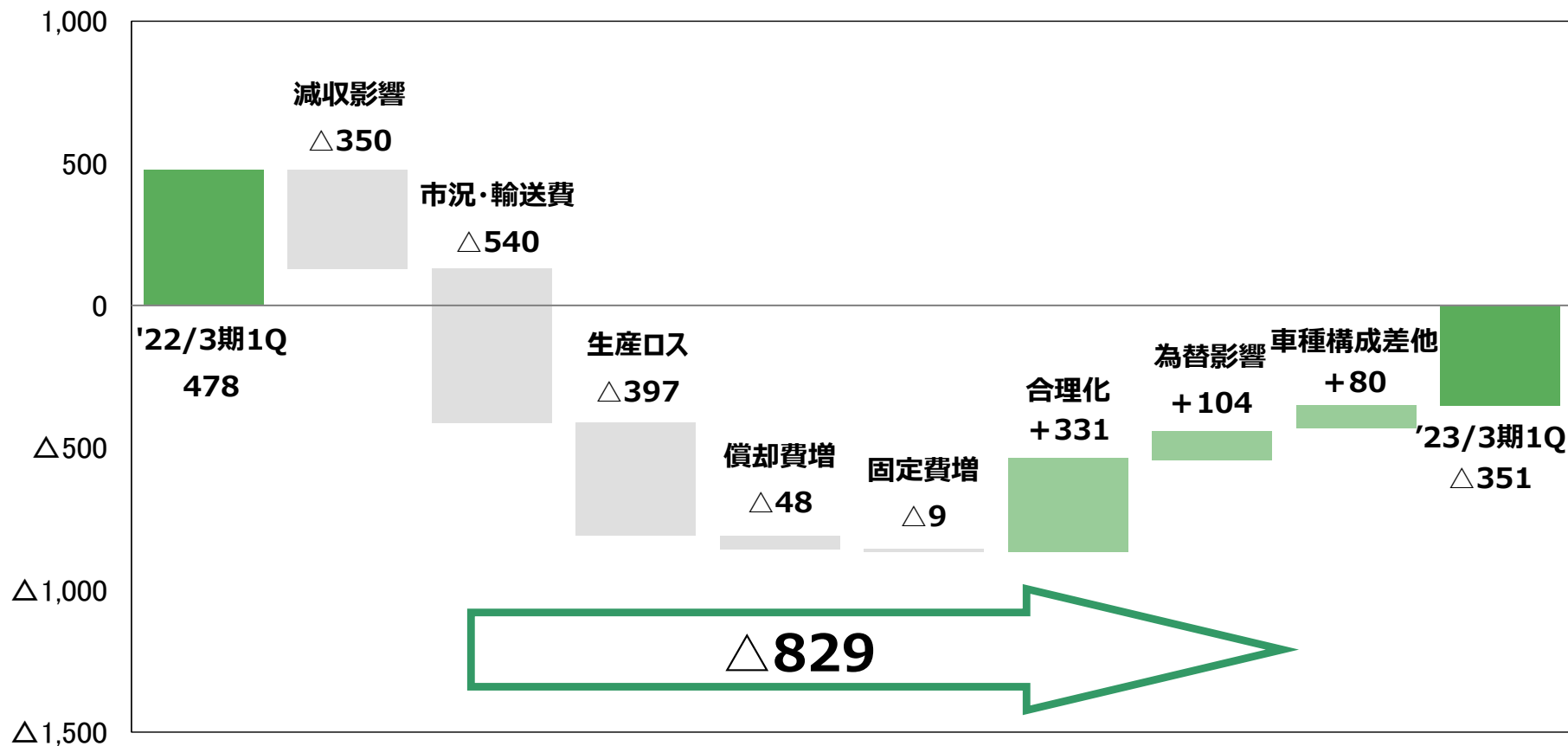
為替影響、新車効果等により、日産は増加



# (5) 営業利益増減説明



(単位：百万円)

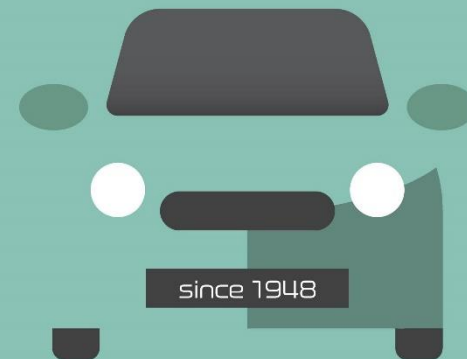


減収影響、市況・輸送費の高騰、生産口入等により、赤字化

I. 2023年3月期第1四半期 決算報告

II. 2023年3月期 通期見通し

III. トピックス



# (1) 概要



(単位：百万円)

	2022年3月期		2023年3月期		対前年比	
					増減	伸率
売上高	86,504	100.0%	110,000	100.0%	23,495	27.2 %
営業利益又は 営業損失(△)	△ 722	△ 0.8%	2,500	2.3%	3,222	—
経常利益又は 経常損失(△)	△ 289	△ 0.3%	2,300	2.1%	2,589	—
親会社株主に帰属する 当期純利益又は親会社株主に 帰属する当期純損失(△)	△ 8,018	△ 9.3%	1,400	1.3%	9,418	—
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失(△)	△ 419.41円		73.22円		—	—
1株当たり配当金	20.00円		20.00円		—	—
設備投資額	7,227		7,500		273	3.8 %
減価償却費	5,562		5,785		223	4.0 %
US \$ 換算レート	110.39円		125.00円		14.61	—

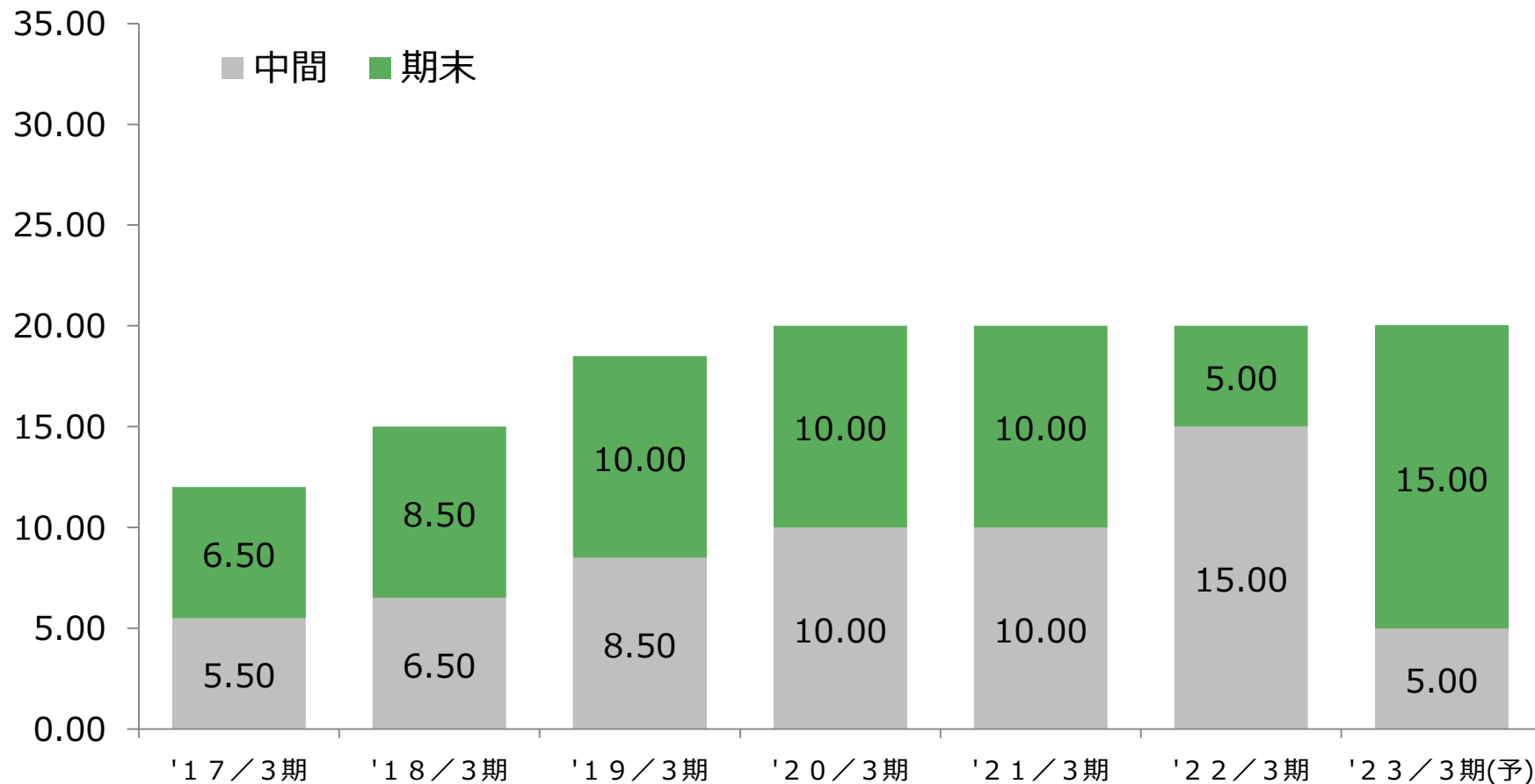
直近に公表されている業績予想からの修正はなし

## (2) 配当金



(単位：円)

### <配当金推移>

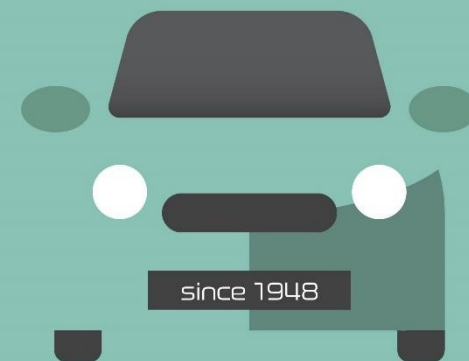


直近に公表されている配当予想からの修正はなし

I. 2023年3月期第1四半期 決算報告

II. 2023年3月期 通期見通し

III. トピックス



## 青山学院大学との共同研究内容が第69回日本応用物理学会 春季学術講演会で公開されました

当社は、青山学院大学理工学部 電気電子工学科教授 黄晋二先生の研究室とSWCNTインク（Single-Wall Carbon Nanotube）を電極材料とした高導電性膜の転写手法の研究を進めています。

SWCNT膜は、優れた機械的、電氣的、熱的安定性を持つ事に加えて、高いフレキシブル性を有する事から、次世代の高機能な導電材料として応用が期待されています。

本研究では、Cu薄膜上にSWCNT膜を塗布して十分な熱処理で膜を高導電化させた後、特殊な粘着シートを用いて樹脂フィルム上に加熱圧着させ、その後薄膜Cuをエッチング処理してSWCNT膜をフィルム上に露出させる手法を考案し共同で特許出願いたしました。

エッチング処理プロセス時に、SWCNT膜内に存在する多数の空隙をエッチャントの金属イオンが通過して接着層に浸透し、ドーピング効果が発現し、高い導電率を得る事が確認されました。

共同出願特許：「特願2022-026891 導電膜積層体の製造方法及び導電膜積層体」

今後も、青山学院大学とは本技術を活かして、実用化に向けた研究を推進してまいります。

## 2022年6月9日付で厚生労働省より 「プラチナくるみん※」企業に認定



当社は、2020年6月に「くるみん」企業に認定された後、「プラチナくるみん」企業の認定を目指し、男性の育児に関する休暇の取得率向上と、女性のキャリアアップのための意識改革について積極的に取り組み、この度、その活動が評価されました。

※「プラチナくるみん」とは「くるみん」認定を既に受け、仕事と子育ての両立支援の制度の導入や利用が進み、高い水準の取り組みを行っている企業に与えられる認定制度



(参考)当社の「女性活躍推進法」、「次世代育成支援対策推進法」活動実績

2018年5月	女性活躍推進活動を行う「えるぼし」プロジェクト発足
2019年10月11日	女性の活躍推進の取り組みが優良な企業として「えるぼし」企業（3つ星）に認定
2020年6月16日	子育てサポート企業として「くるみん」企業に認定
2022年6月9日	より高い水準の取り組みを行う子育てサポート企業として「プラチナくるみん」企業に認定



## 「はぐくみの森※」活動報告



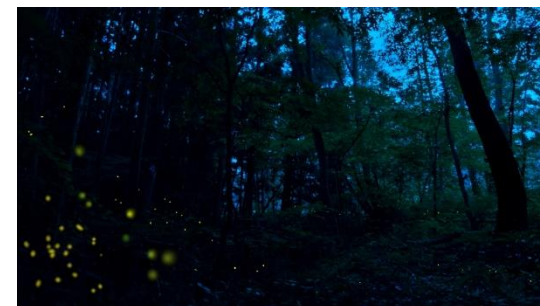
2022年5月10日  
キックオフイベント



2022年5月29日  
第1回 森づくり体験



2022年6月17日  
ヒメボタル生態調査



キックオフイベントでは、看板除幕や記念植樹、ホールアース研究所 代表理事の山崎様によるガイドウォークを実施

しずおか未来の森サポーター制度に基づき、当社の従業員とその家族が参加し、森づくり体験ボランティアイベントを実施

サステナビリティ推進室メンバーによる、はぐくみの森散策路沿いのラインセンサスでの個体数確認を実施

※「はぐくみの森」は当社富士工場(富士宮北山工業団地内)に隣接する、富士宮市所有の約1haの森林です。当社は、静岡県及び特定非営利活動法人ホールアース研究所と「しずおか未来の森サポーター」協定を締結し、地域住民・従業員に対する環境教育を通じた地域貢献に向け、この森林を維持・管理しています。



# ご視聴ありがとうございました。

◆決算説明に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

お問い合わせフォーム：<https://forms.gle/TnTktg8P371yuQgp7>  
(受付期限：2022年9月30日)



◆今後の運営の参考にさせていただきますので、よろしければアンケートにご協力ください。

※アンケートにご回答いただいた方、

**先着50名に粗品(QUOカード500円分、当社ノベルティ)をプレゼント**いたします。

アンケート入力画面：<https://forms.gle/cxtEZQE3mRAG8u3YA>  
(回答期限：2022年9月30日)



当社ノベルティの一例（基布や革の廃材を使って製作しています！）

◆本資料に記載の将来予測及び業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

実際の業績は、様々な要因の変化により、記載されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。